

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	中国財務局長
【提出日】	2023年10月12日
【四半期会計期間】	第75期第3四半期（自 2023年6月1日 至 2023年8月31日）
【会社名】	アラハタ株式会社
【英訳名】	AOHATA Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 山本 範雄
【本店の所在の場所】	広島県竹原市忠海中町一丁目1番25号
【電話番号】	(0846)26-0111
【事務連絡者氏名】	執行役員 経営本部長 石橋 弘行
【最寄りの連絡場所】	広島県竹原市忠海中町一丁目1番25号
【電話番号】	(0846)26-0111
【事務連絡者氏名】	執行役員 経営本部長 石橋 弘行
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第74期 第3四半期連結 累計期間	第75期 第3四半期連結 累計期間	第74期
会計期間	自2021年 12月1日 至2022年 8月31日	自2022年 12月1日 至2023年 8月31日	自2021年 12月1日 至2022年 11月30日
売上高 (千円)	14,802,741	15,639,401	19,532,312
経常利益 (千円)	514,445	502,505	448,781
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	358,626	311,656	231,130
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	400,953	351,750	318,249
純資産額 (千円)	13,180,103	13,297,115	13,100,649
総資産額 (千円)	18,875,735	18,847,453	17,685,074
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	43.51	37.78	28.03
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	69.8	70.6	74.1

回次	第74期 第3四半期連結 会計期間	第75期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自2022年 6月1日 至2022年 8月31日	自2023年 6月1日 至2023年 8月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	16.15	33.83

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間における国内環境は、雇用・所得環境に改善がみられ、海外や国内の旅行者が増加するなど、景気の緩やかな回復基調が続きました。一方で、不安定な国際情勢による地政学リスクの影響、輸入コスト及びエネルギーコストの高止まり等による物価の高騰が続いていることから、依然として消費者の節約志向は続きました。

このような状況のなか、当社グループは2022年度からの中期経営計画に基づき、「フルーツのアヲハタ」実現へ向けた取り組みを進めております。

#### 財政状態

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ11億62百万円増加し188億47百万円となりました。資産の増減の主な要因は、受取手形及び売掛金の増加12億57百万円、現金及び預金の増加2億33百万円、商品及び製品の増加1億74百万円、機械装置及び運搬具の減少2億20百万円、商標権の減少1億58百万円などです。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ9億65百万円増加し55億50百万円となりました。負債の増減の主な要因は、短期借入金の増加7億円、賞与引当金の増加2億29百万円、支払手形及び買掛金の増加1億94百万円、未払法人税等の増加1億47百万円、長期借入金の減少2億14百万円などです。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ1億96百万円増加し132億97百万円となりました。純資産の増加の主な要因は、利益剰余金の増加1億46百万円です。

#### 経営成績

売上に続きまして、家庭用は主力のジャム・スプレッドにおきまして、価格改定後の需要回復に兆しがみえてきており、加えて新たな需要創出を目指して展開しております「アヲハタ・Spoon Free」などが売上に寄与しました。産業用は、加工メーカー向けフルーツ加工品やお土産向け商品などの需要が戻ってきており、販売が増加しました。以上の結果から、売上高は156億39百万円(前年同期比5.7%増)となりました。

利益につきましては、原材料の高騰や、エネルギーコスト上昇などの影響を受けましたが、生産性向上の取り組みを進めたこともあり、営業利益は4億38百万円(前年同期比3.6%増)、経常利益は5億2百万円(前年同期比2.3%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は3億11百万円(前年同期比13.1%減)となりました。

#### (2) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

#### (3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における当社グループの研究開発活動の金額は、2億63百万円です。なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	24,000,000
計	24,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年8月31日)	提出日現在発行数(株) (2023年10月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	8,292,000	8,292,000	東京証券取引所 (スタンダード市場)	単元株式数 100株
計	8,292,000	8,292,000	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2023年6月1日 ~ 2023年8月31日	-	8,292,000	-	915,100	-	985,263

##### (5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2023年5月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2023年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 41,300	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,238,800	82,388	-
単元未満株式	普通株式 11,900	-	-
発行済株式総数	8,292,000	-	-
総株主の議決権	-	82,388	-

【自己株式等】

2023年8月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数 の合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) アヲハタ株式会社	広島県竹原市忠海 中町1-1-25	41,300	-	41,300	0.50
計	-	41,300	-	41,300	0.50

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2023年6月1日から2023年8月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2022年12月1日から2023年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	738,653	972,290
受取手形及び売掛金	3,557,347	4,814,611
商品及び製品	1,564,464	1,738,979
仕掛品	106,919	93,147
原材料及び貯蔵品	3,969,473	3,938,591
その他	188,921	248,209
流動資産合計	10,125,780	11,805,829
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,693,970	1,620,030
機械装置及び運搬具(純額)	2,111,610	1,891,078
土地	1,345,322	1,349,629
その他(純額)	167,052	154,570
有形固定資産合計	5,317,956	5,015,309
無形固定資産		
商標権	1,265,198	1,106,943
その他	112,362	65,657
無形固定資産合計	1,377,560	1,172,601
投資その他の資産		
投資有価証券	182,593	192,734
その他	681,183	660,979
投資その他の資産合計	863,776	853,713
固定資産合計	7,559,293	7,041,624
資産合計	17,685,074	18,847,453
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,384,866	1,579,586
短期借入金	500,000	1,200,000
1年内返済予定の長期借入金	285,852	285,852
未払金	559,200	399,067
未払法人税等	38,531	186,384
賞与引当金	21,994	251,282
役員賞与引当金	1,357	7,155
その他	317,141	366,966
流動負債合計	3,108,943	4,276,293
固定負債		
長期借入金	1,070,740	856,351
退職給付に係る負債	343,677	356,575
資産除去債務	60,262	60,314
その他	802	802
固定負債合計	1,475,481	1,274,043
負債合計	4,584,425	5,550,337

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年8月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	915,100	915,100
資本剰余金	1,295,191	1,299,352
利益剰余金	10,769,604	10,916,274
自己株式	89,848	84,306
株主資本合計	12,890,046	13,046,420
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,663	13,857
繰延ヘッジ損益	3,346	-
為替換算調整勘定	39,583	84,681
退職給付に係る調整累計額	167,700	152,156
その他の包括利益累計額合計	210,602	250,695
純資産合計	13,100,649	13,297,115
負債純資産合計	17,685,074	18,847,453



## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年8月31日)
売上高	14,802,741	15,639,401
売上原価	10,819,492	11,652,933
売上総利益	3,983,249	3,986,467
販売費及び一般管理費	3,559,900	3,547,940
営業利益	423,348	438,527
営業外収益		
受取利息	1,993	1,324
受取配当金	9,312	10,060
受取賃貸料	16,442	16,442
技術指導料	12,876	13,524
為替差益	58,920	31,537
その他	13,530	11,325
営業外収益合計	113,075	84,214
営業外費用		
支払利息	7,787	9,500
賃貸費用	10,495	8,345
固定資産除却損	1,401	1,200
その他	2,293	1,190
営業外費用合計	21,978	20,236
経常利益	514,445	502,505
特別損失		
減損損失	4,827	-
特別損失合計	4,827	-
税金等調整前四半期純利益	509,618	502,505
法人税、住民税及び事業税	203,980	236,651
法人税等調整額	52,988	45,803
法人税等合計	150,991	190,848
四半期純利益	358,626	311,656
親会社株主に帰属する四半期純利益	358,626	311,656

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年8月31日)
四半期純利益	358,626	311,656
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,781	7,194
繰延ヘッジ損益	8,007	3,346
為替換算調整勘定	60,487	45,097
退職給付に係る調整額	11,934	15,544
その他の包括利益合計	42,327	40,093
四半期包括利益	400,953	351,750
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	400,953	351,750

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年8月31日)
減価償却費	687,600千円	663,868千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2021年12月1日 至 2022年8月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年2月18日 定時株主総会	普通株式	82,379	10.00	2021年11月30日	2022年2月21日	利益剰余金
2022年7月7日 取締役会	普通株式	82,479	10.00	2022年5月31日	2022年8月8日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間末後となるもの  
 該当事項はありません。

3. 株主資本の金額の著しい変動  
 (自己株式の処分)

当社は、当第3四半期連結累計期間において、2022年2月22日開催の取締役会決議に基づき、譲渡制限付株式報酬として10,025株の自己株式の処分を行いました。

これにより、当第3四半期連結累計期間において、自己株式が20,452千円減少しております。当該自己株式の処分により、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が89,848千円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自 2022年12月1日 至 2023年8月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年2月17日 定時株主総会	普通株式	82,479	10.00	2022年11月30日	2023年2月20日	利益剰余金
2023年7月5日 取締役会	普通株式	82,506	10.00	2023年5月31日	2023年8月7日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間末後となるもの  
 該当事項はありません。

3. 株主資本の金額の著しい変動  
 該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2021年12月1日 至 2022年8月31日)

当社グループは、食品事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2022年12月1日 至 2023年8月31日)

当社グループは、食品事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(収益認識関係)

当社グループは、食品事業の単一セグメントであります。当第3四半期連結累計期間の販売実績を製品等の区分ごとに示すと、次のとおりであります。

区分	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年8月31日)
家庭用(千円)	8,685,573	8,978,895
産業用(千円)	3,920,290	4,393,091
生産受託他(千円)	2,196,878	2,267,415
合計(千円)	14,802,741	15,639,401

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年8月31日)
1株当たり四半期純利益	43円51銭	37円78銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (千円)	358,626	311,656
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	358,626	311,656
普通株式の期中平均株式数(株)	8,242,437	8,249,661

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

2023年7月5日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ)中間配当による配当金の総額 82,506千円

(ロ)1株当たりの金額 10円00銭

(ハ)支払請求の効力発生日及び支払開始日 2023年8月7日

(注)2023年5月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いをおこなっております。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年10月12日

アヲハタ株式会社  
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人  
東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 會田 将之

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 鶴田 純一郎

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアヲハタ株式会社の2022年12月1日から2023年11月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2023年6月1日から2023年8月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2022年12月1日から2023年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、アヲハタ株式会社及び連結子会社の2023年8月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。